


サバティカル期間における研究経過・成果報告書

平成31年 5月10日	
国立大学法人茨城大学長 殿	
所属・職名 教育学部 教授	
氏 名 吉野 聡 	
下記のとおり、サバティカル期間が満了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。	
サバティカル制度を利用した期間	平成30年 4月 1日 ~ 平成31年 3月31日

<p>①研究経過について (利用期間を月単位などに区分して、具体的な研究経過を記入して下さい。)</p>	<p>4月：米国オハイオ州立大学Phillip Ward教授の研究室に、visiting scholar (訪問研究者)として配属し、研修期間中の研修内容 (content map 研究の動向、球技テスト問題の作成等)を確認した。</p> <p>5月~8月：Content map研究の動向に関する基礎的文献を中心とする研修を行うと共に、IRB Protocol, research proposal等英語論文の書き方のトレーニングを実施した。</p> <p>9月~11月：我が国の保健体育教員を対象としたバレーボール及びサッカーの Common content knowledgeを推し測るテスト問題を作成し、データ収集 (予備調査、本調査、信頼性・妥当性検討のための調査)を実施した。また、教師養成系の授業を中心に養成プログラムに参加した。</p> <p>12月~1月：研究グループの中心であるWest Virginia大学の津田氏を中心に、収集したデータの分析・検討を行ったり、得られた結果についての議論を行ったりした。</p>
<p>②研究成果について (目標の達成状況及び研究成果の公表予定について記入して下さい。)</p>	<p>サバティカル期間中における本研修の目的は2点であった。1つは指導内容研究の世界的第一人者であるPhillip Ward教授が推し進める content map 研究の動向を把握し、問題作成や分析手法を習得し、この分野の研究力を高めることであった。特に本研修期間中の前半で基本的な文献研究によって基礎的知識を習得するとともに、Ward教授の研究グループにおいて共同研究者として中心的な存在であるEmi Tsuda氏と共に保健体育科の教員を対象としたバレーボールとサッカーのCCKテスト問題を作成した。この研究成果は現在Tsuda氏を筆頭著者としてInternational Journal of Sport Health Science誌に投稿中である。また、今後教員養成系の大学生を対象にした教育成果を明らかにしたり、現職保健体育教員を対象に指導内容の知識レベルに関する研究を彼らと共に推し進めていったりする予定である。</p> <p>本研修のもう1つの目的は、研究による知見をベースにしつつオハイオ州立大学や近隣の小中学校等の教員研修に役立てられている研修プログラムに関する知見を得ることであった。研修中には教員養成系大学生及び大学院生の授業に多数参加させてもらったり、小学校及び中学校を中心に学校現場で実際の授業を観察させてもらったり、授業検討会に参加する機会を数多く得た。特に小中高等学校と大学が連携し、学校現場での指導機会と大学での授業とを連携させた授業の在り方は多くの体験的示唆を得ることができた。</p>